



「瀬戸焼創作図案集」

平成 24 年 3 月 19 日(月)
あいち産業科学技術総合センター瀬戸窯業技術センター
担当 製品開発室 寺井、光松
電話 0561-21-2116、2117
愛知県産業労働部地域産業課
担当 技術振興・調整グループ 津本、加藤(久)
内線 3360、3361
(ダイヤルイン)052-954-6340

「瀬戸焼創作図案集」を制作しました —「瀬戸焼」デザイン開発の知恵袋としてご活用ください—

あいち産業科学技術総合センター瀬戸窯業技術センター(瀬戸市南山口町)は、「瀬戸焼」の新製品開発において参考となる図案集を制作しました。

この図案集は 3 部構成で、第 1 部「調査編」、第 2 部「明治期『瀬戸窯業競技会*1』図案」(瀬戸蔵ミュージアム収蔵)、第 3 部「創作図案」により構成されています。

第 1 部「調査編」では、『瀬戸のやきものの概況』や『図案の変遷』及び『和洋食器を巡る市場環境』について紹介し、第 2 部「明治期『瀬戸窯業競技会』図案」では、明治 34 年から大正 8 年にわたり、瀬戸陶磁工商同業組合*2 が主催した『瀬戸窯業競技会』に出品された図案を掲載しています。また、第 3 部「創作図案」では、図案のモチーフ*3 を『植物』『生き物』『自然』『抽象その他』に分類し、デザインを提案しています。

1 図案集の名称

～明治から現代へ～ 瀬戸焼創作図案集

2 背景及び目的

陶磁器産業は、世界的な景気の減速、中国製品を中心とした安価な輸入品の増加、国内市場の成熟化による消費者の買い控えなどの影響により、全国有数の陶磁器産地である瀬戸地域においても、大変厳しい状況に置かれています。

このような状況において、地元陶磁器業界では、品質の向上や、高機能・高付加価値化を目指した製品開発に取り組んでおり、とりわけ食卓厨房用品及び和洋飲食器の商品開発では、消費者意識に適合した新しい図案が必要とされています。

過去を遡れば明治維新以降、政府は陶磁器を輸出の重要品目と位置づけ、新技術の導入などとともに、図案改良を推進してきました。なかでも瀬戸の陶磁器業界は、輸出振興や国内需要の拡大を目的として、「図案競技会」を開催するなど、積極的に図案改良へ取り組んできた経緯があります。

このような背景のもと、瀬戸窯業技術センターでは、瀬戸のやきものの伝統を継承しつつ、消費者意識に適合した、新しい時代にふさわしい「瀬戸焼」のデザイン開発を支援することを目的に、明治34年から大正8年にわたり瀬戸陶磁工商同業組合が主催した「瀬戸窯業競技会」を参考に、当時の図案のモチーフなどを活かしながら、現代の感性により、新しい図案を提案する図案集を制作しました。

3 発行部数

400部

4 閲覧・配布先

平成24年3月19日（月）から、瀬戸窯業技術センターにて閲覧可能です。

また、県内の陶磁器関連団体・教育機関、公設図書館等へも配布されます（一般の方への配布は実施しておりません）。

5 問合せ先

あいち産業科学技術総合センター 瀬戸窯業技術センター

〒489-0965 瀬戸市南山口町537

電話：0561-21-2116、2117 FAX：0561-21-2128

担当：製品開発室 寺井、光松

URL：<http://www.aichi-inst.jp/seto/>

明治陶図案-001



明治陶図案-002



022

「瀬戸窯業競技会図案」の一例

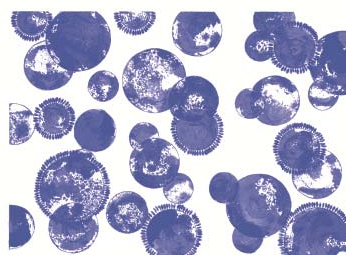
001
(明治陶参考図案001)
向日葵

丸いつばいの中に大きく向日葵を配し、食欲が湧くような光沢になるようデザインした。



002
(明治陶参考図案001)
向日葵

輪郭やスタンプなど明治陶の図案には見られない技法を多用し、新しい向日葵をデザインした。コントラストを強くすることで、器の少ない柄も見える面を計画した。



088

「創作図案」の一例

【用語解説】

＊1 瀬戸窯業競技会

図案の向上を目的として、瀬戸陶磁工商同業組合^{＊2}の主催で「瀬戸窯業競技会」が開催されました。発案者は、瀬戸陶器学校の校長であった黒田政憲であったとされています。明治 34 年(1901)から開催された「瀬戸窯業競技会」は、大正 8 年まで継続して開催されました。

近年、明治 35 年頃(1902)と明治 37 年(1904)頃に開催された「瀬戸窯業競技会」の図案帳 2 冊が発見されました。当時各地で図案に関して調査・研究されていたものの、まとまった資料として現存しているものは少なく、貴重な資料といえます。

＊2 瀬戸陶磁工商同業組合^{せ と とうじこうしょうどうぎょうくみあい}

「瀬戸陶磁工商同業組合」は、明治 32 年(1899)に窯業の進歩、特に海外輸出の販路拡張を目的として設立されました。この組合は、前身の「瀬戸陶磁工組」^{せ と とうじこうそ}よりも規模が大きく、一部、東春日井郡、愛知郡・西加茂郡の村にまで及んでいました。

＊3 モチーフ

絵画・彫刻などの芸術作品で、表現の動機・きっかけとなった、中心的な思想・思い。本図案集では、「瀬戸窯業競技会」図案に見られる向日葵^{ひまわり}、双葉葵^{ふたばあおい}、竹などを「植物」に、カタツムリ、魚、蝶などを「生き物」に、波、夕日、水などを「自然」に、オカメ、羽根^{ほうおう}、鳳凰などを「抽象その他」に分類して、それぞれ図案として新たに提案しました。